

## 新潟県中越地震4年目の被災地 DVT 検査

新潟大学大学院呼吸循環外科 榎沢和彦

2008年11月9日に新潟県小千谷市、11月16日に新潟県十日町市で新潟県中越地震から4年目の被災地 DVT 検査を行った。例年通り県や市の広報、新聞やFM ラジオで検査日時をあらかじめ被災者に知らせ、またこれまでに検査を受けたうち血栓が見つかった方とその他 1000 人に葉書で検査日時を知らせて行った。下肢静脈エコー検査のエコー装置はメーカーから借用し下腿静脈のみ座位で検査した。血液検査はDダイマー値などを測定した。小千谷市の検査では236人が検査を受け、そのうち174人が女性、平均年齢  $64.6 \pm 11.4$  歳(29-89歳)であった。また236人中21人が初めて検査を受けた方であった。血栓(DVT)は初めて検査を受けた21人中1人(4.76%)、それ以外で215人中19人(8.83%)に見つかった。小千谷市の被検者236人のDダイマー値平均は  $553.2 \pm 729.7$  ng/ml であった。一方、十日町市では133人が検査を受け、そのうち94人が女性、平均年齢  $67.8 \pm 10.3$  歳(26-83歳)であった。また133人中81人が初めて検査を受けた方であった。血栓(DVT)は初めて検査を受けた81人中10人(12.3%)に認め、それ以外では52人中6人(11.6%)に血栓を認めた。十日町市の被検者全体のDダイマー値は  $510.4 \pm 393.3$  ng/ml であった。以上より小千谷市、十日町市ともに新規発症のDVT頻度は中越地震対照地である阿賀町一般住民のDVT頻度1.8%よりも未だ高く、地震の影響が残っているものと考えられた。また小千谷市よりも十日町市でDVT頻度が高い可能性があると考えられ、今後検討する必要があるものと思われた。なお新潟県中越沖地震1年目の柏崎市で行ったDVT検査では269人中14人(5.2%)に血栓が認められている。小千谷市ではこれより低く十日町市では高い。また中越地震2年目と3年目の被災者のtPAI-1は血栓有りでそれぞれ  $32.0 \pm 21.8$   $\mu$ g/ml、 $16.7 \pm 8.1$   $\mu$ g/ml、血栓無し者でそれぞれ  $18.0 \pm 7.7$   $\mu$ g/ml、 $13.6 \pm 13.5$   $\mu$ g/ml であり、中越地震3年目では血栓の有無に関係なく有意にtPAI-1が低下していた。これらのことから中越地震被災地では地震によるDVTはほぼ安定したと考えられたが、十日町では未だ頻度が高いため注意が必要であり、その原因について検討していく必要がある。